

食味良好な晩生ナシ新品種「甘太（かんた）」

[要約]

「甘太」は、「新高」と同時期(10月上旬～中旬)に収穫できる晩生品種で、「新高」よりも果肉が軟らかく高糖度で良食味である。樹勢が強くて樹冠拡大が容易であり、短果枝の着生は多い。

農業総合センター園芸研究所	平成26年度	成果区分	技術情報
---------------	--------	------	------

1. 背景・ねらい

近年のナシ消費動向は、高糖度で良食味のナシを求める傾向が強まっている。県内の主要品種は、「幸水」、「豊水」、「あきづき」、「新高」であるが、晩生品種の「新高」は他の主要品種に比べて果肉が硬く、食感が劣る。そこで、新たな晩生品種として、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成され、平成25年11月22日で出願公表されたナシ「甘太」の特性について明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「甘太」は、樹勢が強く、樹齢7年生で樹冠面積は20 m²を超え、樹冠拡大が容易である(表1、表2)。枝の発生密度は「新高」と同程度である。えき花芽の着生は「新高」より少ないが、短果枝着生は多い。果実の揃いは「新高」よりも良好である。
- 2) 開花期は「新高」よりも遅く、「豊水」と同時期である(表2)。収穫期は「新高」とほぼ同時期であり、収穫始めが10月2日、収穫終わりが10月17日である。
- 3) 平均果重は634gで「新高」より大きく、糖度は13%以上で「新高」より高く、硬度は「新高」より低い(表3)。果肉が軟らかく、多汁、良食味であり、みつ症や裂果の発生は認められていない。収量は樹齢7年生で100kg/樹を超え、多収性である。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 青ナシであり、サビの発生がみられるが、無袋栽培では収穫期には果面が赤らみ、サビが目立たなくなる(図1)。有袋栽培にするとサビの発生は軽減されるが、果色が青く仕上がるためサビが目立つ。
- 2) 収穫適期の判定が難しく、果面を赤くしすぎると食感が悪くなるので、穫り遅れに注意する。満開後155日前後が収穫始期であるため、9月下旬から果面をよく観察して収穫を開始する。
- 3) 収穫前落果が見られることがあり、落果防止剤の使用が有効である。
- 4) 自家不和合性であり、交配においては主要品種「幸水」、「豊水」、「新高」とは和合性であるが、「あきづき」、「筑水」、「なつしずく」とは不和合性である。
- 5) 若木期においては骨格部先の新梢発生が少ないため、結果枝確保のための新梢伸長には短果枝へのジベレリンペースト塗布が有効である。
- 6) 苗木の販売は平成26年秋から開始されている。

4. 具体的データ



図1 ナシ新品種「甘太」

※ 交配組み合わせ：「王秋」×「あきづき」

表1 「甘太」と「新高」の特性

品種名	樹勢	枝の発 生密度	短果枝 の着生	えき花芽 の着生	果実揃い
甘太	強～中	中	中～多	中	中～良
新高	強	中	多	多	中

1) 平成22～26年度園芸研究所（笠間市安居）

表2 「甘太」及び「新高」、「豊水」の生態

品種名	樹齢 (年生)	樹冠面積 (m ²)	開花期(月/日)			収穫期(月/日)	
			始	満	終	始	終
甘太	4	—	4/18	—	4/30	10/11	10/14
	5	—	4/23	4/25	4/30	10/10	10/13
	6	14.9	4/22	4/26	4/29	9/28	10/18
	7	20.1	4/8	4/10	4/15	9/30	10/20
	8	22.9	4/16	4/18	4/25	9/25	10/21
	平均		4/17	4/19	4/25	10/2	10/17
新高	22～26		4/11	4/15	4/21	9/28	10/16
豊水	22～26		4/16	4/19	4/25	9/6	9/23

1) 平成22～26年度園芸研究所（笠間市安居）

表3 「甘太」と「新高」の果実品質及び収量

品種名	樹齢 (年生)	平均果重 (g)	糖度 (Brix%)	硬度 (lbs)	pH	生理障害の発生		収量	
						みつ症	生理的 裂果	kg/樹	kg/10a
甘太	4	684	13.2	4.1	4.77	無	無	0.7	27
	5	575	13.7	4.5	—	無	無	15.7	597
	6	651	13.7	4.4	4.76	無	無	51.7	1,965
	7	571	13.0	4.0	4.52	無	無	119.9	4,556
	8	688	14.4	4.0	4.67	無	無	110.8	4,210
	平均	634	13.6	4.2	4.68	無	無		
新高	22～26	591	12.3	5.0	4.81	少	有	141.0	5,359

1) 平成22～26年度園芸研究所（笠間市安居）

2) 10a当たりの収量は38本/10a植えで換算した。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹推奨品種決定と生態収量予測・平成25年度～・果樹研究室